

都心における地域住民のニーズから生まれた公共空間

－東京都港区を対象として－

日大生産工（院）○山本 香織 日大生産工 浅野 平八

1. 研究の目的

近年、多様化する価値観やライフスタイルを持つ人々が増加し、町会・自治会など従来の地縁型コミュニティへの参加に消極的な住民層の拡大が指摘されている。また、全国的に少子高齢化が進行している中、都心部では人口回帰の傾向が見られる。都心3区のひとつ、東京都港区でも近年の大規模集合住宅開発等による定住人口の増加が続いている。しかし、このような都心における人口増加の背景にある大規模集合住宅はオートロック式の高い安全性確保のために匿名性の高い暮らしをつくり、隣人の顔さえも知らない状況を生み出している。その結果、介護や子育ての悩みを抱えこみながら孤立する人々の存在が懸念されている。また、業務機能・商業機能・住居機能の混在により、昼間人口と夜間人口に大きな差が生じるのも都心特有の性質である。3機能の混在からこのような状況が顕著に表れている区として東京都港区が挙げられる。港区は良好な住宅地が形成される一方で、全国的に知名度の高い地域が多く、大企業の本社ビルや大規模商業施設が建ち並んでいる。そのような特有の性質を持った都心において、地域住民が安心・安全に集うことができる居場所や誰もが自由に参加できる活動基盤となる施設の確保が大変重要である。そこで、都心居住において地域住民の需要に応じて建てられたコミュニティ施設の実態を調査し、都心の地域施設の整備課題を明らかにすることを目的とする。

2. 調査概要 港区基本計画と施設の現状

本稿では、港区の基本計画から施設整備の考察と現状の施設調査を実施する。それぞれに特色を持った「芝」「麻布」「赤坂」「高輪」「芝浦港南」の5地区を基本行政区画域としている港区では、地域住民の居場所や団体活動のために各地区に区民センター・児童館・福祉会館を整備している。本論では、2000年以降に地区ごとの必要性に応じて港区在住者のために開設された5施設に着目する。それぞれの施設実態を観察調査し、さらに館長（1館のみ副館長）にヒアリング調査を実施した。

3. 港区基本計画にみる公共空間

港区はそれぞれに特色を持った地区特性を活かすとともに、地域の課題を地域で解決し、区民がより身近な場所で行政サービスを受けられることを目的として、平成18年4月よ

り「区役所・支所改革」を実施した。それに伴い「芝」「麻布」「赤坂」「高輪」「芝浦港南」の5地区それぞれに総合支所が設置され、地域の課題解決や情報の発信等、その地区独自の取り組みがなされるようになった。

「港区基本計画」は、区政のあらゆる分野における最上位計画であり、区全体の「分野別計画」と総合支所ごとに策定した「地区版計画」で構成されている。平成21年度から26年度までの6ヵ年計画で、前期（平成21～23年度）と後期（平成24年～26年度）に区分し、3年目（平成23年度）に見直しを行う。その計画指針には、「利用しやすさを考慮した公共公益施設の見直し」という項目において、「既存区有施設の機能や配置について、地区ごとの人口動態や年齢構造の変化などを踏まえた見直しを進めるなど、区民のニーズに対応した公共公益施設の整備を行う」と掲げている。区の人口増加に伴い、限られた施設をより多くの住民が利用できるよう、統廃合や再配置を含めた見直しを進めている。その具体例として、乳幼児から中高生までの幅広いニーズに対応する機能を持った「子ども中高生プラザ」を総合支所の区域ごとに設置することを基本計画に掲げている。現在、既に開設している赤坂子ども中高生プラザに続く芝・高輪・麻布・港南の4地区においても計画・設計・建設がそれぞれ進行中である。子ども中高生プラザの建設に際し、その地区ごとに既存の児童館や福祉会館の整備を行い、必要があれば改築移転して新しくできる施設の有効活用を図っている。表1に示すのが、現在各地区で決まっている整備内容である。それぞれの地区で子ども中高生プラザを基盤として、その地区に今後必要と思われる施設機能を複合していることがわかる。

今回調査を実施した施設の中で、港南中高生プラザは、新たに四丁目公益施設が開設されるとともに閉鎖し、表1に示す複合施設として開設される。また、あつぴい麻布も麻布地区の中高生プラザ等複合施設の中に新たにできる子育てひろばに移転することが決定している。その他にも現在10館ある児童館が、子ども中高生プラザ整備後は統廃合され6館となる。（図2）

このように、港区内の5地域全てに中高生プラザを基盤として、それぞれの地区に必要な地域住民のための複合施設整備が進められている。

A Public Space that Came out of the Needs of Resident in the Center of a City.

—For the Minato-ku,Tokyo—

Kaori YAMAMOTO , Heihachi ASANO

表1 子ども中高生プラザ整備内容

地区	施設名称	整備施設内容
高輪	(仮)高輪子ども中高生プラザ	子ども中高生プラザ(学童クラブを含む) 子育てひろば 図書館
芝	(仮)芝公園保健福祉等複合施設	子ども中高生プラザ(学童クラブを含む) 保育園 児童館・福祉会館：既存施設を廃止し移転
芝浦 港南	(仮)港南四丁目公益施設	子ども中高生プラザ(学童クラブを含む) 地域コミュニティ施設 保育園
麻布	(仮)麻布子ども中高生プラザ等複合施設	子ども中高生プラザ(学童クラブを含む) 子育てひろば：あっぱい麻布を移転 保育園・福祉会館：既存施設を改築・移転

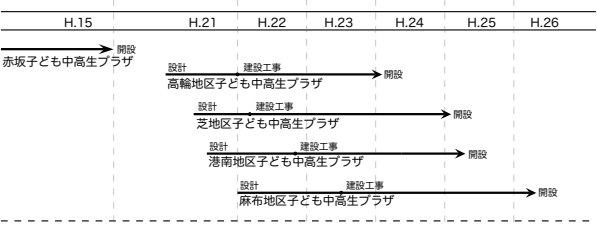


図1 子ども中高生プラザ建設計画表

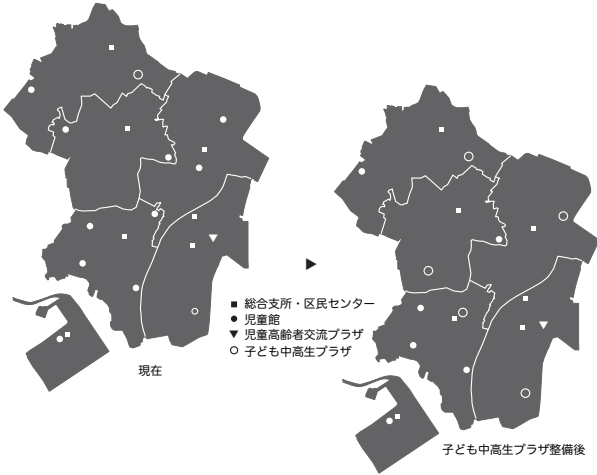


図2 児童施設配置

表2 調査施設概要

施設概要	名称	1) 赤坂子ども中高生プラザ	2) 港南子ども中高生プラザ	3) 芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ	4) あっぱい・台場	5) あっぱい・麻布
	施設種別	児童厚生施設(大型児童センター)	児童施設	児童施設・高齢者施設	子育てひろば	子育てひろば
	開設年	2003年(平成15年)	2006年(平成18年)	2007年(平成19年)	2008年(平成20年)	2008年(平成20年)
	開設経緯	廃校になった小学校をコンバージョン	都営アパート1Fに開設	芝浦アイランドの島びらきに合わせて開設	民間の商業施設内に初の設置(港区)	元はスーパーマーケットを改装
	開館時間	9時半～20時	9時半～18時(中学生・高校生：～20時)	9時半～20時	11時～6時	10時～18時
	休館日	祝日、年末年始	祝日、年末年始	年末年始	商業施設休館日、年末年始	年末年始
	対象	0歳～18歳未満の児童、保護者	0歳～18歳未満の児童、保護者	0～18歳未満の児童、保護者 港区在住の60歳以上の方	港区在住の0～3歳の乳幼児と保護者	港区在住の0～3歳の乳幼児と保護者
	利用料	無料(一部行事、活動で実費費用負担)	無料	無料	無料(講座などにより実費負担有)	無料(講座などにより実費負担有)
運営	運営者	社会福祉法人 東京聖労院	財団法人 本所賀川記念館	財団法人 東京YMCA	テンプスタッフ・ウィッシュ株式会社	株式会社アソシエ・インターナショナル
	職員数	18名(常勤10人、非常勤8人)	20名	18名	8名(常時3名)	常時4～5名
空間	施設規模	RC4階建ての1階半分	RC24階建て都営アパート1階部分	SRC4階建ての3、4階部分	商業施設内4階の一部	2階建て(ひろばは1階のみ)
	延床面積	1725.41㎡	プラザ:547㎡ 分室:1187㎡	1928.30㎡	86㎡	286.62㎡
	主要諸室	フロント	事務室	フロント	ひろば	ひろば
		ラウンジ	図書コーナー・図書ラウンジ	ふれあいラウンジ	ミニキッチン	ミニキッチン
		メディアルーム	パソコン室	パソコンルーム・おしゃべりコーナー	読書・相談室	おもむき替え・授乳スペース
		キッズルーム	おひさまっこコーナー	キッズルーム	バギー置き場	バギー置き場
		クラブルーム	図工室	アートルーム		
		スタジオⅠ・Ⅱ	サロン室	多目的ルーム		
		アリーナ	ローラースケート場・屋上球技場	体育室		
		学童クラブルーム	学童クラブ室	学童クラブ ウェスト・イースト		
				ミニホール		
				集いの部屋		
				憩いの部屋		

4. 施設調査結果

調査を実施した施設の概要を表2に示す。0～18歳までの子どもを対象とした大型児童施設と、0～3歳までの乳幼児とその保護者を対象とした子育て支援施設に分けられる。また、5施設全てが指定管理者に運営を委託している。

1) 赤坂子ども中高生プラザ

①開設の背景 平成5年に少子化の影響により廃校となった旧氷川小学校の活用として、港区立中高生プラザ条例に基づき、0～18歳までの子どもとその保護者が利用できる赤坂子ども中高生プラザ(以下、プラザ)と、特別養護老人ホーム及び高齢者住宅サービスセンターを開設した。赤坂地区は企業の本社が多く立ち並ぶ業務機能と青山や六本木等多くの人が訪れる商業機能、古くからこの地に住む人々の住宅機能が混在している。居住者にとって、安心して子どもが遊べる場所の確保が重要であり、かつ港区5地区の中で老年人口(65歳以上)の比率が最も大きいことから高齢者施設の整備も必要であったと考えられる

②空間 1階部分の半分をプラザが占め、残りは高齢者施設となっている。共有部分はエントランスホールのみでイスとテーブルが設置しており、両施設の利用者が休憩・談話に利用している様子が見られた。プラザ内は旧小学校の面影を残し、廊下を挟んだ両側に諸室が並んでいる。アリーナとして使用されている体育室は小学校時のまま活用されている。スタジオのみ要予約室となっており、中高生のバンドやダンス練習、高齢者の方の生け花教室に使用されている。ラウンジのみ飲食可で、異年齢の児童や保護者間の交流が見られる。

③活動 各部屋の機能が明確なため、利用者は自由に居場所を選択して遊ぶ様子が見られた。中高生は特にアリーナとスタジオで多く見かけられた。高齢者施設との交流行事や中高生向けのイベントも適宜行われている。

2) 港南子ども中高生プラザ

①開設の背景 港南地区周辺のマンション建設ラッシュや港南児童館の閉鎖に伴い、都営住宅の1階に開設された。港区内に整備されている児童館は、18歳までの子どもを利用対象としているものの、中高生の利用はほとんど見られない。そこで、中高生の居場所づくりを重視し、子ども達の遊び場と自主的な活動を支援することを目的として赤坂に続き中高生プラザ条例に基づいてつくられた。

②空間 都営住宅の1階に開設されたプラザと、それだけでは中高生の十分な活動場所確保や学童クラブの人員増加に対応できず、道路を挟んだ向かいにある幼稚園の中に分室を開設した。テーブル・イスと乳幼児専用の絨毯敷きスペースの両方がロビー空間にあることで、乳幼児から中高生まで幅広い利用層の混在が見られた。中高生を意識して時間帯や専用の部屋が設けられていた。

③活動 中高生の居場所づくりと地域、周辺大学との連携を意識したイベントの開催が目立つ。

3) 芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ

①開設の背景 芝浦4丁目の埋立地に開発された高層マンション群が立ち並ぶ地帯に在り、一帯の街びらきに合わせて開設された。運河に囲まれたこの地区は橋を渡らなくては他地域へ移動できず、近くに児童館や福祉会館もない。島面積も限られていることから子どもと高齢者の複合施設となった。

②空間 地上4階の建物の内、1・2階がこども園、3・4階部分が交流プラザとなっている。「集いの部屋」と「憩いの部屋」が高齢者専用の室であり、飲食は全ての利用者が「ふれあいラウンジ」で行うことになっている。エレベーターや階段が中央に配置されており、それを囲うように部屋が配置されている。フロアが回遊式であることに加え、バギーや車いすのままフロアを移動することへの配慮から廊下の幅が広く、子どもたちが走り回る姿が多く見られた。

③活動 利用者が自由な場所で過ごす姿が見られた。赤坂のプラザと同様に、乳幼児・児童・中高生・高齢者それぞれに行事を設け、時に交流イベントを実施している。

4) あっぴい台場

①開設の背景 台場地区は、商業・飲食の施設やメディア発信の場など、年間を通して観光客が多く訪れる。居住地としてもマンション建設が進み、多くの世帯が住んでいるため、ここに住む人たちにとっての安心・安全な居場所づくりが課題となっている。周辺に児童館が1館しかなく、乳幼児とその保護者が安心して過ごせる居場所をつくるため開設された。居住地に近い場所につくりたいという要望であったが、場所の確保が難しく、やむを得ず商業施設内に開設することとなった。

②空間 通路となっていた場所に壁を立てて空間をつくったため完全に閉じられた空間ではなく、同じフロア内のゲームセンターの騒音問題が課題となっている。広さも限りがあ

るため、余計な備品を置かないよう心がけていた。

③活動 0～3歳までの乳幼児を連れた保護者が訪れ、設置してあるおもちゃで自由に遊ぶ様子が見られた。商業施設の中にある特徴から、買い物のついでに立ち寄る親子や、休憩のために1日に何度か訪れる親子もいる。

5) あっぴい麻布

①開設の背景 大使館が多く存在する港区の中でも、そのほとんどが麻布地区に位置し、外国人居住者が多く住んでいることから国際色豊かな地域である麻布地区。大規模開発が行われ商業施設が建ち並ぶ街並と自然豊かな居住地域が共存している地域である。子育てをする世帯も多く、児童館とは別に乳幼児が安心・安全に遊べる場としてつくられた。

②空間 スーパーだった建物を改装してつくられた。

1階に受付と子育てひろば、2階がスタッフの事務所となっている。防犯対策のため、入り口は2重のガラスドアとオートロック式で、利用者はチャイムを鳴らして施錠を解除してもらってから入るシステムとなっている。

③活動 乳幼児と保護者が自由に遊んだり休んだりしている。遊具や絵本も設置してあり好きな物で遊ぶ様子が見られた。また、大人のために地域の情報や子育て資料等も多く置かれており、情報交換の場にもなっていた。

5. 施設調査結果の考察

施設ヒアリング調査から得られたことを図3に示す。ここで①運営②空間③活動について考察する。

①運営 区から職員を派遣して運営している児童館と違い、指定管理者により開館時間の延長と土日の開館が利用者にとってのメリットとして挙げられる。中高生の利用を意識した開館時間といえる。また、それぞれに経験豊かなスタッフが、ノウハウを持って運営していることで利用者のニーズに適切に応えている。

②空間 大型児童施設に類する中高生プラザはこれまで小学生の利用が多くを占めていた児童館に対し、大きな体育室やバンド・ダンスのグループ練習が可能な防音設備を整えたスタジオなど中高生の利用を意識した室構成となっている。乳幼児や小学生、保護者にとっては安心・安全に遊ぶことができる場、高齢者にとってはゆっくりと過ごす居場所と若い世代との交流を図る場の両方が必要である。乳幼児・小学生・中高生・高齢者と全世代を対象としている施設では各世代のベースとなる室と、異世代が混在できる空間とを分けて設置することが重要であることがわかった。

以上の施設調査より、得られたことを以下にまとめる。

(1) 予約を必要としない室で構成されていることで、サークル等に所属していない子どもや新規に移り住んできた親子が訪れやすく、地域の拠点と成りうる。

(2) 幅広い世代を対象としていることで子どもが成長していく段階においても継続的な施設利用が期待できる。

(3) 都心で孤立しがちな乳幼児と親たちに安心・安全な居

	運営	空間	活動
大形児童施設 （中高生プラザ・児童高齢者交流プラザ）	指定管理者制度	0～18歳までの子どもの遊び場	
	開館時間の延長 土日の開館 ▼ 利用者増加	中高生の居場所づくり ▼ 体育室やスタジオ設置	中高生の委員会 ▼ 地域を巻き込む活動 周辺大学との連携
	経験豊かなノウハウ ▼ イベントの充実	世代ごとのベースとなる空間	世代間交流イベント
共通	指定管理制度の期限 (5年) ▼ 長期計画が立てにくい	外で遊ぶ空間が不足 土や緑と触れ合う場の確保 周辺環境との騒音問題	基本は利用者の自由遊び 交流を図る活動の開催
子育てひろば （あひびい場・あひびい廊）	経験豊かなスタッフ	乳幼児の専用空間 ▼ 児童館より安心・安全	情報収集の場 ▼ 悩み相談の場

上図3 ヒアリング調査まとめ 下表3 児童施設利用状況（人）

地区 館名		芝		麻布		赤坂		高輪				芝浦港南		
		新橋 児童館	芝公園 児童館	飯倉学童 クラブ	西麻布 児童館	青山 児童館	赤坂子ども 中高生 プラザ	豊岡 児童館	高輪 児童館	朝日 児童館	白金台 児童館	台場 児童館	港南 子ども 中高生 プラザ	芝浦アイ ランド児童 高齢者 交流 プラザ
幼児	年間	3,511	2,770	3,872	3,268	3,446	13,501	2,513	3,026	2,390	11,021	3,521	13,387	18,274
	月平均	293	231	323	272	287	1,125	209	252	199	918	293	1,116	1,523
小学生	年間	8,370	4,859	17,694	10,138	17,877	24,959	20,229	21,912	20,455	25,450	26,360	46,510	35,542
	月平均	698	405	1,475	845	1,490	2,080	1,686	1,826	1,705	2,121	2,197	3,876	2,962
中学生	年間	615	250	24	762	923	3,313	752	972	2,386	1,079	1,718	3,729	2,941
	月平均	51	21	2	64	77	276	63	81	199	90	143	311	245
高校生	年間	140	564	0	133	251	6,380	200	7	42	79	483	1,703	1,222
	月平均	12	47	0	11	21	532	17	1	4	7	40	142	102
大人	年間	4,314	2,498	8,081	3,615	4,163	22,938	2,644	3,866	2,312	12,704	8,155	13,164	25,985
	月平均	360	208	673	301	347	1,912	220	322	193	1,059	680	1,097	2,165
合計	年間	16,950	10,941	29,671	17,916	26,660	71,091	26,338	29,783	27,585	50,333	40,237	78,493	83,964
	月平均	1,413	912	2,473	1,493	2,222	5,924	2,195	2,482	2,299	4,194	3,353	6,541	6,997

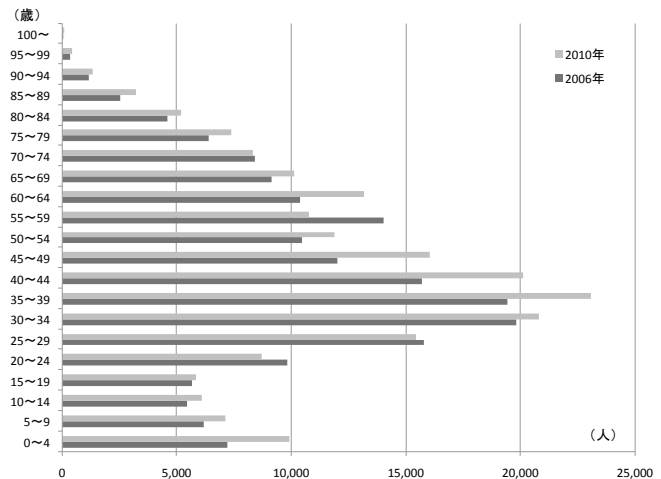
場所を提供している。

6. 地域住民のニーズ

都心においてどのような施設需要があるか人口推移から考察する。新規住民の流入により、定住人口の増加が続いている港区では図4を見てもわかるように、0～4歳の年少人口と子育て世代の30～40代後半の生産年齢人口の伸びが顕著である。地域住民のための施設もそれらのニーズに対応した空間・運営が求められている。3章で述べたように老朽化が目立つ児童館を廃止し、新たな児童施設や子育てひろばなどの整備に力を入れている背景には、このような人口の増加傾向が影響していると考えられる。

表3は平成21年度の児童施設利用者状況である。施設名に網掛けをしている4館は中高生プラザ建設に伴い、廃止が決定している。また、全体の利用状況を児童館と比較してみると、赤坂子ども中高生プラザ・港南子ども中高生プラザ・芝浦アイランド児童高齢者交流プラザの3館は中高生の利用者数が圧倒的に多い。児童館の年間中高生利用者数の平均が1138人に対し、3館の中高生利用者平均は6429人と約5.6倍である。今回の施設調査において、それら3施設は中高生の利用を意識した運営・空間への配慮がなされており、その成果が利用者数として表れているといえる。

小規模な児童館ではなく、大型児童施設としての子ども中



上図4 港区世代別人口推移

高生プラザと他の施設を複合することで、今後さらに住民利用の増加が期待できる。

7. まとめ

本論の考察より得られたことを以下にまとめる。

- (1) 都心では中高生の居場所づくりが課題となっている。
- (2) 新規住民の多い都心では室の予約が不要であり個人で気軽に利用できる施設が重要である。
- (3) 子ども中高生プラザを基盤とし、各地区のニーズに合った施設をこれに複合することで全世代に対応した地域住民の居場所づくりが可能になる。

今後、都心の施設整備モデルをさらに探査し、都心におけるコミュニティ施設の整備方法を明らかにしたい。

【参考文献】

- 定行まり子「児童館における中高生対応についての考察」地域における中高生の居場所に関する研究その1、日本建築学会計画系論文集 第577号2004年3月
- 「港南四丁目公益施設基本計画」、芝浦港南地区総合支所管理課、2009年4月
- 「（仮称）麻布子ども中高生プラザ等複合施設整備基本構想」、港区麻布地区総合支所管理課、2009年12月
- 「（仮称）麻布子ども中高生プラザ等複合施設整備基本計画」、港区麻布地区総合支所管理課、2010年3月
- 港区行政資料集、港区総合経営部企画課、2009年8月